

第6回建築設備シンポジウム「環境建築の最先端設計技術 Part II」

<開催主旨>

温暖化ガス排出量削減に向けて建築に必要な環境配慮・省エネルギー性能も益々高度化が進む中、より高性能な「環境建築」の実現を目指し、各方面で積極的な取り組みが展開されつつある。ゼロエミッション建築、持続可能建築、グリーンビルディング等、ひとえに「環境建築」といってもその関係する分野は多岐に渡っているし、問われている。環境配慮・省エネルギー性能には、安全・安心はもちろんのこと機能性・快適性・生産性・満足感とともに地球環境や都市環境の視点からの環境共生特性など多様な視点が含まれる。

このような背景により、はじめに、最近、話題となっている実在の「環境建築」を題材に、設計者からコンセプトや導入した「設計技術」を紹介いただく。併せて、建築設備運営委員会の各小委員会から最先端の設計技術についての話題を提供いただき、今後の「環境建築」の創り方、あり方を幅広く論じる主旨で、シンポジウムを企画した。

<主催>環境工学委員会 建築設備運営委員会

日時:2010年10月14日(木) 10:00~17:00

会場:建築会館ホール

プログラム・講演者

主旨説明:宇田川光弘(工学院大学) 10:00-10:05

(1) 第1部「話題の環境建築に学ぶ」

司会:柳井 崇(日本設計)

- 1) 事例-1:エプソンイノベーションセンター 滝澤 総(日建設計) 10:05-10:25
- 2) 事例-2:新丸の内ビルディング 米木 伸一(三菱地所設計) 10:25-10:45
- 3) 事例-3:日産先進技術開発センター 佐々木 真人(日本設計) 10:45-11:05
- 4) 事例-4:大成札幌ビル 梶山 隆史(大成建設) 11:05-11:25
- 5) 事例-5:鹿島技研・新実験棟 平岡 雅哉(鹿島) 11:25-11:45
- 6) 事例-6:パナソニック電工本社ビル 三宅 利幸(パナソニック電工) 11:45-12:05
- 7) 午前の部 総合討論 進行:石野 久彌(首都大学東京) 12:05-12:50

(2) 第2部「建築設備の最前線技術」

司会:羽山 広文(北海道大学)

- 1) 建築環境・設備設計図書に関する情報共有のための学会規準
(AIJES-B0001-2010)の概要 中島康孝(工学院大学) 13:45-14:05
- 2) 清水建設新本社のタスクアンビエント空調システム 高橋満博(清水建設) 14:05-14:25
- 3) 新しい拡張アメダス気象データと将来気象データ 窪田真樹(鹿児島大学) 14:25-14:45
- 4) 次世代排水システムー従来システムの限界と次世代システムの展望 坂上恭助(明治大学) 14:45-15:05

<休憩> 15:05-15:20

5) BESTと新しい最大熱負荷計算法 郡 公子(宇都宮大学) 15:20-15:40

6) ガラス建築とCO2削減 安田 健一(三菱地所設計) 15:40-16:00

7) 午後の部 総合討論 進行:野部 達夫(工学院大学) 16:00-16:45

まとめ 宇田川光弘(前掲) 16:45-16:55

定員:200名

参加費(資料代込・当日徴収):会員:2,000円,登録メンバー:2,500円,会員外:3,000円,学生:1,500円

資料代:1,500円

*登録メンバーとは:会員外であって本会「能力開発支援制度」に登録された方

(詳細は日本建築学会ホームページ <http://www.ajj.or.jp/jpn/CPD/> を参照)

申込方法:E-mailにて「催物名称、氏名、会員種別(会員番号)、勤務先名、電話番号、FAX番号、E-mail」を明記のうえ申し込んでください。定員に達した場合のみ、お断りのご連絡を差し上げます。

申込み・問合せ:事務局研究事業部 榎本 E-mail:enomoto@ajj.or.jp